

大学図書館問題研究会 京都

京都市左京区吉田本町

京都大学教育学部図書室

(竹村心気付)

TEL 075-751-2111 (内3013)

大学図書館問題研究会京都支部 第7回支部総会議案書

1984年10月20日午後2時～5時

同志社大学学生会館

第1号議案 1983年度の支部活動の総括と 1984年度の支部活動の方針案

I 大学図書館をめぐって

中曽根内閣は、「戦後政治の総決算」の主要な柱である「教育大改革」をすすめるために、「臨時教育審議会」を設置した。

この「大改革」は大学を中心とした「中教審」型の高等教育の再編を最終目標とするものである。

中曽根内閣は、この「大改革」を実行する上で障害となっている大学の自治を破壊するために、官僚統制を徹底的に強めてきている。

このような状況の中で、教授会や評議会が「大学再編」のための「協力機関」「推進機関」に変質させられる状態が目立っている。

一方、「全国私大白書」が指摘するように、私立大学の教育条件はやや改善されているものの、国公立大学に比べ依然として劣悪であり、大半の私立大学は、教員給与が高ければその分マスプロ授業や高額学費が進むなど“アリ地獄的経営”を続けている。50年以降の私大助成で改善傾向にあった財政も57年から

悪化に転じた。61年度からの18歳人口急増期を前に、高等教育の76%を占める私立大学への補助金を削減するのは時代に逆行するものである。

文部省は、当面、学術情報政策の中心的課題を学術情報システムの整備、特に、文献情報センターと東工大、阪大、京大等の数大学とを結ぶサービスを一部開始することに全力をあげている。

また、文部省は外国雑誌センターに外国雑誌を集中する一方、各大学に重複購入を止めさせ、学内の図書館組織を再編・合理化し、学術情報の資源共有化の体制づくりを強化してきている。

さらに、今後、教養部の大学からの分離とコミュニティカレッジ化、一般教養教育の放送教育化に備え、また、「産学」「軍学」協同体制の確立へ向けて、開館時間の延長と学外者への公開を強く指導・推進している。

しかしながら、国大協図書館特別委員会が、①学術情報センターのひとつの機能である各学問分野の情報検索サービスについて実働化を急ぐ。②情報の提供、関係職員研修等について早急かつ十分な措置が必要である。③

図書館関係予算の一層の配慮を求めたい。④
大学図書館の整備充実について大学の全域から理解と協力が必要であるとの見解が示されたことは注目している。

京都大学では、文献情報センターと接続することを最大の目的とした図書館業務の電算化を急いでいる一方、バックナンバーセンターへの雑誌の受入、高額参考図書の集中化をはかり、附属図書館の研究機能を強化しようとしている。また、研究基盤の確立のために、新たに「学術情報システム整備委員会」を設置した。あいつぐ人勧凍結と昇格おくれ、定員削減や機械化による労働強化は図書館員の労働意欲を失わせている。

京都工芸繊維大学では、図書館の電算化も閲覧貸出システムに続いて、雑誌管理システムの開発が最終段階に入っている。京大図書館に地域センターとしての電算機が導入されたのにもない、工繊大も第2次電算化計画であるメンバーライブラリとしての概算要求を提出した。

龍谷大学では、昨年度より機械化検討委員会が発足し、機械化の現状と問題点の把握に努めている。今年度はこの委員会のもとに、テーマごとの小委員会が設置され、業務にいかにか結びつけていくかという視点からの調査・研究がおこなわれている。更に、図書館に対する情報の一元化・有機的結合という利用者へのニーズに対応すべく、規程・内規の整備を図る一方、館員全員による図書館づくりをすすめるため図書館全体会議を開催して、各担当業務で抱えている問題点の総ざらいをした。また、利用者のための図書館づくりの一環として、春闘時期には、教職員組合主催による教員と図書館員との懇談会を持って、お互いの意志疎通を図る一方、学生へのオリエ

ンテーションについては前年度に引き続いて実施した。全ての新入生に対して図書館ツアーを実施するとともに、経済学部3回生に対してはゼミ単位で卒論作成のための資料の探索というテーマで実施した。特に今年度は、90分を有効に利用するために、配布資料を作成するとともに、指導の到達目標を設定して標準化を図った。

立命館大学では、図書館業務の機械化計画の見直し後、閲覧システムの機械化を常務理事會に提案したが、認められず、大学財政の厳しさもあって、日曜開館、土曜日開館時間の短縮を含めた4層のサービスポイントの業務の見直しが求められている。一方、教員の図書館要求調査をもとに、研究機能の充実にむけ業務改善をおこなっている。

大学図書館に、今程、いつでも、どこでも誰れでも、利用者のあらゆる資料要求に応えてゆくことが求められている時はない。

今こそ、教職員・学生と共に現場からの大学図書館づくりを大胆に展開してゆこう。

I 1983年度の支部活動の総括

1983年度の支部活動の基本目標は、①すべての会員が学習・研究テーマを持ち、成果を発表する。②「国民の要求にもとづく大学図書館の総合的発展のために(骨子)」にもとづいて、学生・教員と共に、自館の現状と課題を班会議を基礎に調査・研究する。③一人ひとりの会員が日常的に学習・研究活動を行えるような班活動・グループ活動を創造する。④会員のいない大学図書館を減らし、短期大学図書館に会員を増やす。学生・教員にも加入をよびかける。ということであった。

以下4項目について総括する。

(1) 会員が学習・研究テーマを持ち、深める

ために、日常業務に密着したテーマや大学と図書館の将来を見通せるようなテーマを月例会で企画し、実行した。

即ち、10月「ドイツの参考図書解題」(大月誠・龍谷大学教授)、11月「ソビエトの参考図書解題」(生森将人・大阪外大助教授)、12月「教育としての学校図書館」(塩見昇・大阪教育大学教授)、1月「公共図書館から見た大学図書館」(天満隆之輔・元枚方市立図書館長)、2月「統計資料入門」(細川元雄・京大助手)、3月「学術情報システムの現状と課題」(柴田正美・国立民博)、5月「ペーパーレスライブラリの可能性を探る」(中村順一・京大助手)、6月「京大附属図書館見学会」、7月「国民のための学術情報システム」(かみかた機械化研究会)。

参加者からは感銘と好評を得たが、延参加者が約140名に留まったことは残念であった。

また、班会議を基礎に自館の現状と課題を明らかにすることは、会員がテーマを持ち、深化させる機会をつくり、科学的な見通しと実践課題を具体化するものであるが、同志社大学班の閲覧部門の現状と課題分析や田辺移転ともなう図書館システムの検討、さらに、京都大学班の京大ライブラリシステムと研修カリキュラムの分析・検討等は今後にもその成果を期待したい。

(2) 会員が日常的に学習・研究活動を行なえるようにするために、学習サークル活動を重視した。その結果、参考図書研究グループ、MARC研究会、理工学文献研究会、西洋書誌研究会、分類相関索引研究グループ、婦人問題書誌研究グループ、図書館・情報学学習サークル、かみかた機械化研究会に参加する会員は全会員の25%に達するまでになった。これらの会員の学習・研究成果は、今年度発

行した10号の支部報「大学図書館問題研究会京都」や「大図研論文集11」「大図研シリーズ8号」に発表した。

(3) 図書館職員の25%を会員にしている京大をはじめとして、京都支部は府下の図書館職員の19%を会員にするまでになった。

しかしながら、まだ大学図書館の改革に現実的な力量を持つに至っていない。

それらの力量を持つためには、当面、会員の学習要求に根ざした学習サークルをつくり、専門的力量を身につけさせることと、困難ではあるが、大学の構成員、特に教員・大学院生などの研究者との協力が今後の課題である。

(4) 大学図書館問題研究会第15回大会を立命館大学未川記念館で無事成功させ、大会参加者から大会運営で評価を得たことは、立命館大学の会員をはじめ、現地大会実行委員の努力の成果である。

■ 1984年度の支部活動の方針案

1. 支部活動の基本目標

- (1) すべての会員が現場に根ざした学習・研究テーマを持ち、その成果を発表する。
- (2) 学生・教員と共に、自館の現状と課題を班会議を基礎に調査・研究し、研究成果を図書館活動に、日常の仕事の充実・改善に生かす。
- (3) 一人ひとりの会員が日常的に学習・研究活動を行えるような班活動・グループ活動を創造する。
- (4) 会員のいない大学図書館を減らし、学生・教員に加入をよびかける。

2. 支部活動の具体的目標

A 学習・研究活動

- (1) 教員の図書館利用調査をおこない、学術情報システムと自館の図書館活動の充実・改善を教員と共にこなす。

(2)すべての会員が現場に根ざした学習・研究課題を持てるように、班活動・グループ活動を工夫する。

(3)学習サークルをつくる。

(4)研究グループを増やし、研究成果を合評し、『大図研論文集』に投稿する。

(5)全国共同プロジェクトに参加する。

(6)大学図書館職員の専門性を維持・発展させる研修の場として京都大図研学校(第1期)を開校する。

(7)文庫・図書館見学会や交流会をおこなう。

B 出版・普及活動

(1)『会報』は年10回4頁タイプ印刷にする。

(2)職場の実態や事例報告、班活動の様子が掲載する。

(3)『会報』を学生や教員にも普及する。

(4)『大学の図書館』に職場の実態や事例報告を投稿する。

(5)大図研出版物の継続予約購読(年間5,000円)をすすめる。

C 組織活動

(1)班会議を定期化する。

(2)会員の交流をはかる。

(3)府下の大学図書館員の20%以上を目標に組織する。

(4)学生・教員の会員を増やす。

(5)図書館問題研究会と共同する。

D 財政活動

(1)会費年額3,000円を4,000円に改訂する大図研活動の総点検運動をおこない、全員投票を成功させる。

(2)夏季のボーナス時の前納制を積極的にすすめる、会員の完納をめざす。

(3)『大学の図書館』刊行維持基金(1口5,000円)に20口以上寄託する。

(4)大図研出版物の継続予約者を会員の30%を

目標に組織し、冬季のボーナス時の前納制をすすめる。

(4)班に財政担当者をおく。

**第2号議案 1983年度の決算報告と
1984年度の予算案**

1983年度 決算報告 1983年8月1日～
1984年7月31日

収 入

1982年度繰り入れ	130,841
還元金及び支部費	180,900
例会参加費	4,000
支部報普及費	<u>1,550</u>
合 計	<u>317,291</u>

支 出

会 報 費	168,400
通 信 費	36,490
例 会 費	48,000
会 場 費	13,500
1983年度へ繰り越し	<u>50,901</u>
合 計	<u>317,291</u>

1984年度 予算案

収 入

還元金及び支部費	212,500
(会員数125人×1,700円)	
支部活動援助金	50,000
(第15回大会剰余金)	
1983年度繰り入れ	<u>50,901</u>
合 計	<u>313,401</u>

支 出

会報費(20,000円×10回)	200,000
通 信 費	40,000
例 会 費	50,000
(大図研学校運営費)	
雑 費	<u>23,401</u>
合 計	<u>313,401</u>

大図研京都支部 第7回支部総会 資料1

1983年度 支部活動日誌

1983年

9. 6. 参考図書研究会
同志社大学班会
13. 参考図書研究会
14. 京都大学班幹事会
15. 図問研京都支部総会
17. 支部総会 第6回 6大学17名 京
大会館
19. 京都大学班幹事会
20. 参考図書研究会
同志社大学班会
22. MA R C研究会
27. 参考図書研究会
10. 1. 京都大学班総会&例会「附属図書館
新館について」広庭基介氏 7 部局
13名
立命館大学班会 7名 全国大会報
告
4. 参考図書研究会
5. 同志社大学班会
7. 支部委員会(第2回)
11. 参考図書研究会
13. MA R C研究会「目録法学習会」
15. 支部例会「ドイツの参考図書」大月
誠龍大教授 参加者18名
17. 京都大学班幹事会
参考図書研究会
24. 参考図書研究会
26. MA R C研究会
- 29~30 大図研全国委員会(第2回)
11. 1. 参考図書研究会
4. 支部委員会(第3回)
7. 京都大学班幹事会
8. 参考図書研究会
15. 理工学文献研究会
参考図書研究会
18. 関西4支部合同連絡会
19. 京都大学班例会「『大図研論文集10』
を読む会」5名
22. 参考図書研究会

11. 24. MA R C研究会
26. 支部例会「ソビエトの参考図書解題」
生森将人大阪外大助教授 13名
29. 理工学文献研究会
参考図書研究会
12. 3. 京都大学班例会「附属図書館問題シ
ンポジウム」13名
5. 京都大学班幹事会
6. 参考図書研究会
12. 支部委員会(第4回)
13. 参考図書研究会
16. 西洋書誌研究会
20. 理工学文献研究会
21. かみかた機械化研究会
24. 支部例会「教育としての学校図書館」
塩見昇大阪教育大教授 11名

1984年

1. 10. 参考図書研究会
京都大学工学部会員会議
13. 京都大学班幹事会
支部委員会(第5回)
17. 参考図書研究会
21. 新春関西5支部合同例会「公共図書
館からみた大学図書館」天満隆之助
元枚方市立図書館長 支部会員10名
24. 参考図書研究会
科学技術図書館研究会
27. かみかた機械化研究会 支部会員4
名
28. 常任委員会合同委員会
31. 参考図書研究会
2. 3. 西洋書誌研究会
4. 京都大学班例会「科学技術図書館シ
ステムを考える」9名
6. 京都大学班幹事会
支部委員会(第6回)
7. 参考図書研究会
10. 関西4支部合同連絡会
17. 西洋書誌学研究会
21. 参考図書研究会
23. MA R C研究会

2. 24. 同志社大学班会議
25. 支部例会「統計資料入門」細川元雄
京大助手 8名
29. 全国大会会場・宿舍内定
3. 2. 「講座 情報と図書館」学ぶ会発足
6名
3. 京都大学班例会「京大理工学図書館
システムを考える」6名
かみかた機械化研究会
5. 京都大学班幹事会
支部委員会(第7回)
8. MARC研究会
10. 支部例会「学術情報システムの現状
と課題」柴田正美氏 20名
14. かみかた機械化研究会
分類相関索引作成グループ
21. 分類相関索引作成グループ
24. 図書館・情報学学習サークル
28. 分類相関索引作成グループ
29. MARC研究会
31. 図書館・情報学学習サークル
4. 4. 分類相関索引作成グループ
7. かみかた機械化研究会
9. 京大班幹事会
支部委員会(第8回)
10. 参考図書研究会
12. MARC研究会
14. 図書館・情報学学習サークル
18. 分類相関索引グループ
19. 同志社大学班会
24. 参考図書研究会
25. 分類相関索引作成グループ
- 28/29. 全国研究集会(第10回)新潟 全体
84名 46図書館 23レポート 20名
発表 京都支部 8名 4大学
- 29/30. 全国委員会
5. 7 支部委員会(第9回)
京大班幹事会
8. 参考図書研究会
10. MARC研究会
11. 西洋書誌研究会
同志社大学班会
5. 12. 立命館大学班会 全国研究集会報告
図書館・情報学学習会
19. 支部例会「ペーパーレスライブラリの
可能性を探る」中村順一氏 11名
22. 参考図書研究会
24. MARC研究会
25. 西洋書誌学研究会
26. 京大班例会「参考図書に関する評価
基準」大図研論文集11合評会
6. 2. 図書館・情報学学習会
関西5支部委員会連絡会
4. 京大班幹事会
支部委員会(第10回)
5. 参考図書研究会
8. 西洋書誌学研究会
9. 支部例会「京大附属図書館見学会」
15名
14. MARC研究会
15. 西洋書誌研究会
16. 京大班例会「文献情報センター目録
システム開発の概要」
19. 参考図書研究会
23. 図書館・情報学学習サークル
28. MARC研究会
7. 2. 京大班幹事会
支部委員会(第11回)
3. 参考図書研究会
12. MARC研究会
13. 西洋書誌研究会
14. 図書館・情報学学習サークル
支部例会「国民のための学術情報シ
ステム構想」かみかた機械化研究会
14名
17. 参考図書研究会
21. 京大班例会「大学図書館業務の電算
化」学習・検討会 13名
26. MARC研究会
28. 図書館・情報学学習会
8.
4~6 大図研第15回大会
- 会員数 127名 (10月1日現在)